



# 小学校高学年における 教科担任制の充実に向けて

「学校力向上に関する総合実践事業」の  
実践から学ぶ取組のヒント集

北海道教育庁学校教育局義務教育課



## はじめに

---

小学校高学年における教科担任制については、令和3年1月26日の中央教育審議会の答申（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～）において、本格的な導入が示され、現在、道内の多くの学校において地域の実情や学校指導体制を踏まえた取組が進められています。

教科担任制は、メリットを実感し、成果を上げている学校がある一方で、複数校で専科教員が指導を行っている場合は、「専科教員と学級担任の打合せ時間を確保すること」や「授業時数、時間割の調整」などに課題を抱えている学校もあります。

こうした状況を踏まえ、道教委では、すべての学校で小学校高学年における教科担任制を実施している「学校力向上に関する総合実践事業」の指定地域の教職員を対象にアンケートを実施し、「打合せ時間の確保」に向けた取組等を「ヒント集」として取りまとめ、全道の学校に紹介することとしました。

本資料が道内の教科担任制を導入している学校、これから導入することを検討している学校にとって、子どもたちの資質・能力の育成に向けた効果的な取組を進める上での一助になることを願っています。

令和6年3月 北海道教育庁学校教育局義務教育課長 遠藤 直俊

## 目 次

---

小学校高学年における教科担任制について	1
小学校高学年における教科担任制の成果	3
教科担任制推進上の課題	4
教科担任制の充実に向けたヒント① …時間割、日課の工夫による打合せ時間の確保	6
教科担任制の充実に向けたヒント② …I C Tを活用した情報共有	7
教科担任制の充実に向けたヒント③ …連絡体制や分掌、会議の実施、座席配置の工夫	8
参考 小学校における教科担任制に係る全国の資料	9

## 小学校高学年における教科担任制について

小学校高学年における教科担任制は、義務教育9年間を見通し、中学校への円滑な接続を図ることや、複雑化・多様化する令和の学校の在り方を踏まえ、本格的に導入することが求められています。

小学校高学年における教科担任制に関するこれまでの経緯や、教科担任制の目的・趣旨や効果は次のとおりです。

### 小学校高学年における教科担任制に関するこれまでの経緯

小学校における教科担任制については、従前から、学校や地域の実情に応じて多様な実践が行われており、学級担任が原則として全ての教科を指導することとしつつも、音楽や家庭等の技能系教科を中心とした専科指導は、昭和30、40年代から行われてきました。

小学校における教科担任制や専科指導自体は、必ずしも新しいものではありませんが、現行の学習指導要領において、小学校3・4年生において外国語活動、小学校5・6年生において外国語科が導入され、より専門性の高い指導が求められるようになり、平成30年度以降、文部科学省は、小学校の専科指導の充実に向けた新たな定数措置等を講じています。

こうした中、令和3年1月26日の中央教育審議会の答申において、教科担任制を本格的に導入する必要があるとされ、以下のように、その理由が示されました。

- 児童生徒の発達の段階を踏まえれば、児童の心身が発達し一般的に抽象的な思考力が高まり、これに対応して各教科等の学習が高度化する小学校高学年では、日常の事象や身近な事柄に基礎を置いて学習を進める小学校における学習指導の特長を生かしながら、中学校以上のより抽象的で高度な学習を見通し系統的な指導による中学校への円滑な接続を図ることが求められる。
- 多様な子供一人一人の資質・能力の育成に向けた個別最適な学びを実現する観点からは、GIGAスクール構想による「1人1台端末」環境下でのICTの効果的な活用とあいまって、個々の児童生徒の学習状況を把握し、教科指導の専門性を持った教師によるきめ細かな指導を可能とする教科担任制の導入により、授業の質の向上を図り、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図ることが重要である。
- 教科担任制の導入は、教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校教育活動の充実や教師の負担軽減に資する。

文部科学省は、外国語、理科、算数及び体育を優先的に専科指導の対象とすべき教科とし、小学校高学年における教科担任制を推進するために必要な加配定数について、段階的に取組を推進しています。各学校においては、こうした定数措置の活用のほか、学級担任間の授業交換、小小連携・小中連携の取組との組合せ等により、各学校や地域の実情を踏まえた取組を進めることが大切です。今回の小学校高学年における教科担任制の本格的な導入に当たっては、専科指導の対象となる教科も増える中、より総合的な取組となることから、従前の実践での経験や成果を活かしつつ、一部の専科教員による取組とすることなく、学級担任をはじめ全ての教職員により学校全体で組織として取り組むことが不可欠であり、教育委員会による支援を得つつ、管理職によるマネジメントによって様々な工夫を凝らす必要があります。

## 小学校高学年における教科担任制の目的・趣旨や効果について

文部科学省の「義務教育9年間を見通した指導体制の在り方等に関する検討会議」において令和3年7月にまとめられた報告では、「取組の効果」として、次の4つの観点に整理されています。

- ① 授業の質の向上
- ② 小・中学校間の円滑な接続
- ③ 多面的な児童理解
- ④ 教師の負担軽減

### ① 授業の質の向上

教師が担当する教科数の減少や授業外の時間の増加に伴い、教材研究が充実するとともに、同じ授業を複数回実施することにより、授業改善が図られ、児童の学習内容の理解をはじめ学力が高まることが見られる旨が示されており、最も基本的な効果と言えます。

### ② 小・中学校間の円滑な接続

児童が安心して進学し、中学校に進学した際に学習・生活に順応しやすいなど、小・中学校間の円滑な接続に寄与する旨が示されています。

また、小・中学校間の円滑な接続に当たっては、同一中学校区内の小・中学校の教師間の連携が非常に重要である中、とりわけ、中学校教員が小学校と兼務して、いわゆる乗り入れ授業により教科担任制を実施する場合、当該中学校教員を核として小・中学校の教師間の連携が深まるとともに、相互に学び合う状況が日常となり、大いに効果を発揮することが期待されます。

### ③ 多面的な児童理解

学級担任のみではなく複数の教師が教科指導に当たることを通じ、多面的な指導・支援ができるようになると考えられるほか、学級担任以外にも相談できる教師がいる児童の増加が見られる旨が示されています。事例からも見えてくるように、複数の教師が授業を通じて学年全体の児童の様子に目を配ることとなり、それぞれの教師が担任する学級のみならず、学年全体の状況を常に意識し、児童に関する情報共有等を通じて教師間の連携が深まる効果は、非常に大きなものです。

### ④ 教師の負担軽減

教師が担当する教科数の減少、授業外の時間の増加により教材研究の充実等とともに、時間外勤務の縮減に寄与しているほか、授業交換を実施する場合を含め、授業準備の効率化につながっている状況が見られる旨が示されています。学校における働き方改革を更に進めていくことが急務である中、教科担任制を適切に活用することにより、教育の質の向上と教師の負担軽減を一体的・効果的に進めることが期待できます。

小学校高学年における教科担任制を導入する目的や趣旨は、これら①～④の効果を最大限発揮することと言えます。

教科担任制の取組事例については、次の資料を参考にしてください。

「小学校高学年における教科担任制に関する事例集」（文部科学省）  
[https://www.mext.go.jp/content/20230310-mext\\_zaimu-000027939\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230310-mext_zaimu-000027939_1.pdf)



## 小学校高学年における教科担任制の成果

小学校高学年における教科担任制については、

- ① 授業の質の向上
- ② 小・中学校間の円滑な接続
- ③ 多面的な児童理解
- ④ 教師の負担軽減

などのメリットがあるとされています。

「学校力向上に関する総合実践事業」のアンケートにおいても、その効果を実感している学校が多く見られています。

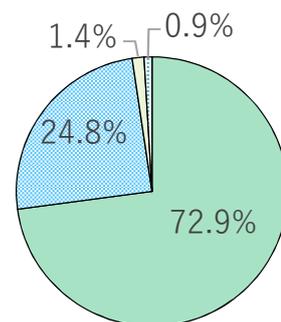
「学校力向上に関する総合実践事業」の中核校及び指定校の教職員を対象としたアンケートから

- 教材研究が充実し、同じ授業を複数回実施することなどにより、授業の質が向上した。

(人)

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
156	53	3	2

(校長、教頭、主幹教諭、教務主任、専科教員が回答)

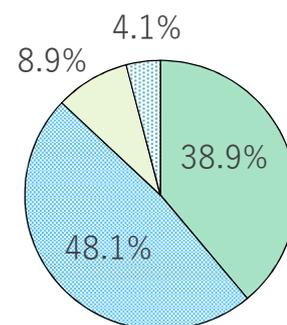


- 小・中学校間の円滑な接続が図られた。

(人)

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
153	189	35	16

(校長、教頭、主幹教諭、教務主任、専科教員、学級担任、事務職員が回答)

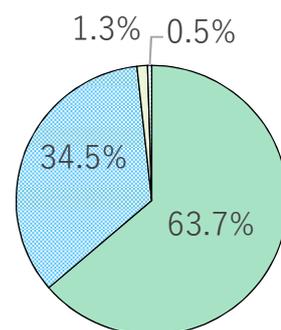


- 複数の教師が教科指導に当たることにより、多面的な児童理解が進んだ。

(人)

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
253	137	5	2

(校長、教頭、主幹教諭、教務主任、専科教員、学級担任、事務職員が回答)

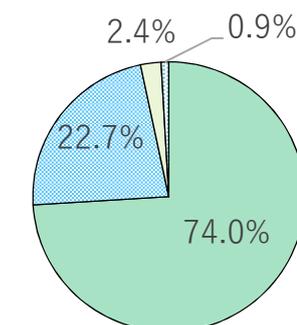


- 担当する教科数が減少し、教材研究の時間を確保できるようになるなど、教師の負担軽減につながった。

(人)

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
245	75	8	3

(校長、教頭、主幹教諭、教務主任、学級担任が回答)

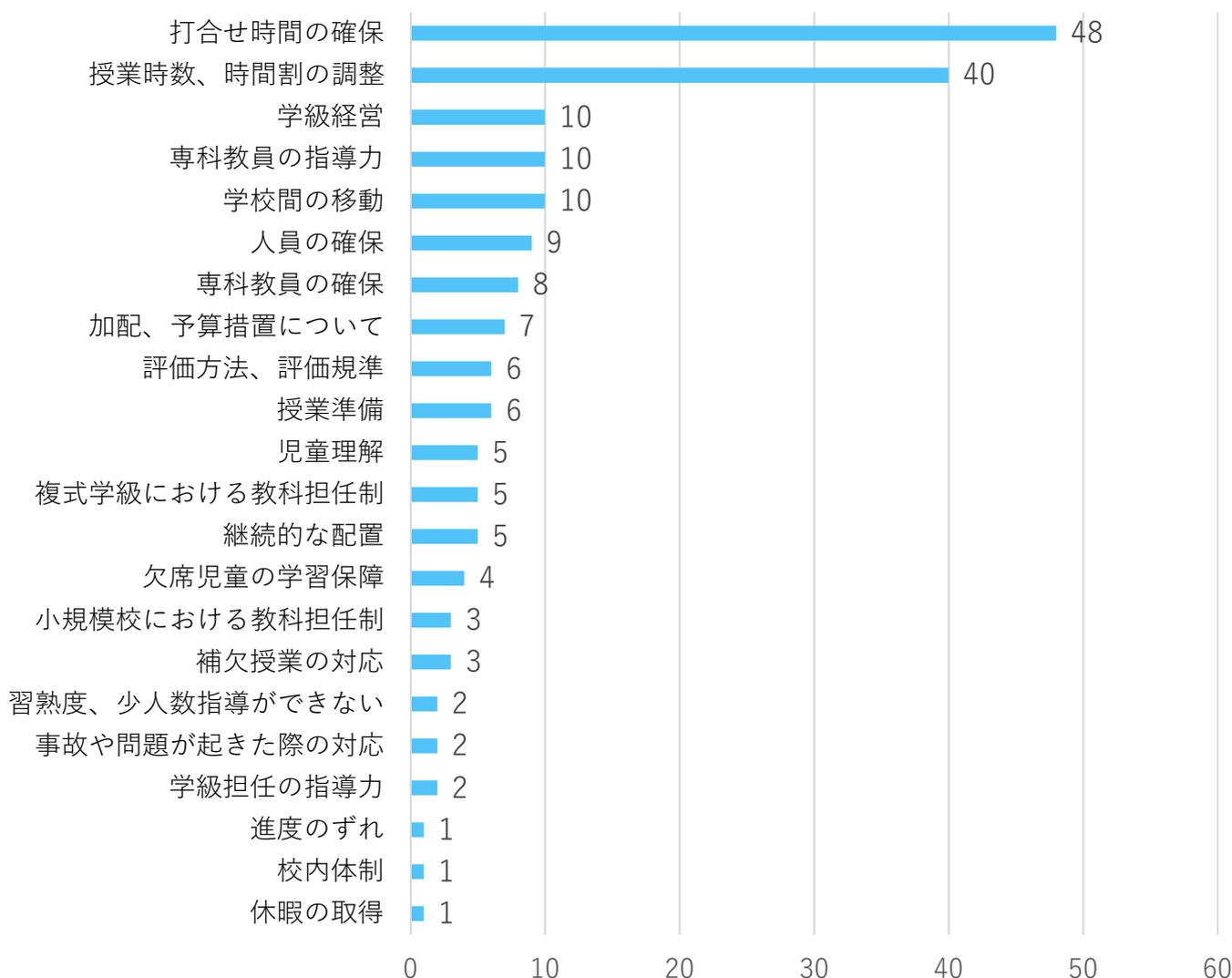


## 教科担任制 推進上の課題

「学校力向上に関する総合実践事業」では、専科教員が指定地域内の複数の学校で指導を行っています。各指定地域で様々な工夫を行っていますが、取組を推進する上で課題となっていることもあります。本事業の指定地域の教職員を対象としたアンケートにおいて、「教科担任制を進める上で困っていること」について自由記述で回答していただきました。

学校力向上に関する総合実践事業の中核校及び指定校の教職員を対象としたアンケートから

〔内容別回答数〕



「困っていること」として記述いただいた内容を分類したところ、「打合せ時間の確保」と「授業時数、時間割の調整」に関する回答が特に多いことが分かりました。本事業では、専科教員が複数の学校で指導を行っているため、各学校に滞在している時間の中で学級担任との打合せの時間をどのように確保するか、複数の学校の時間割をどのように調整していくかが、単一の学校内で教科担任制を行う場合よりも、大きな課題となっていることが明らかとなりました。

また、数は多くありませんが、学級によって指導の仕方が異なるなど、「学級経営」に関する内容や「事故や問題が起きた際の対応」など、学校組織に関する回答もありました。

## 〔代表的な回答〕

### ■ 打合せ時間の確保

児童情報を交流し合う時間の確保が難しい。専科教員が時間の余裕がないため、なかなか生み出す術がない状態である。（校長）
学級担任と専科教員の打合せは、中核校内は時間を確保しやすいが、指定校の学級担任とは時間の確保が難しい。（校長）
高学年担任の先生が、次週の打合せの時間が取りにくい状況だった。次年度、打合せの時間の確保について、教務として積極的にかかわっていきたい。（教務主任）
すべての学校の「朝の打合せ」や「職員会議」に出ることは物理的に難しく、本来知っておくべき生徒指導上の問題や情報などを知らないまま授業を進めることに不安を感じていた。アレルギーやてんかんなどの病状、保護者の変更による名字の変更など、知っていなければならない情報をすべて収集することは難しかった。（専科教員）
専科教員が他校からの加配だったため、なかなか打合せの時間を合わせるのが難しかった。両校の行事等のため、固定時間割にもできず、専科教員には臨機応変に対応していただかなくてはならなかった。（学級担任）

### ■ 授業時数、時間割の調整

各学校では、他の専科教員による授業も複数あるため、複数校を担当する本事業の加配教員の時間割を学校行事などの際に柔軟に調整・変更することが極めて困難であった。（校長）
教科担任制や、習熟度別学習等を行っているが、時間割を組むのが非常に大変であり、どこかの学年で時間割の変更が生じたときに、それに対応するのが難しいと感じる。（教務主任）
中学校を拠点として、2校の小学校へ移動をして授業を行っているが、各学校の行事に合わせて日程や時数をやりくりするのが非常に難しいと感じた。理科の授業を確保するために、本来の国語や算数が入るべき時間を変更してもらうこともあり、1年間を通して、進度をどのように進めればよいのか迷う場面が多々あった。（専科教員）
時間割の組み方。算数はできるかぎり午前中に行いたい、それができない。週末の午後は児童の集中が切れ気味なので、定着しにくいように感じている。（学級担任）

## 教科担任制の充実に 向けたヒント①

### 時間割、日課の工夫による打合せ時間の確保

専科教員と学級担任との「打合せ時間の確保」に向けて、時間割や日課を工夫している学校の取組例を紹介します。



#### 日課表を改訂して児童の下校時刻を 早め、放課後の時間を確保

休み時間や給食、清掃の時間を変更するなど日課表を改訂し、児童の下校時刻を14時35分としたことにより、放課後の時間を増やしました。児童が下校した後の時間に余裕が生まれ、専科教員と学級担任が打合せを行う時間を確保することができました。

#### 専科教員の授業を3、4時間目に 設定し、中休みに打合せを実施

専科教員が授業を行う時間を3時間目と4時間目に固定しました。専科教員が授業を行う前の中休みの時間を専科教員と学級担任の打合せの時間と決めることにより、確実に打合せを行うことができるようになりました。

#### 週末の終会を廃止し、専科教員を含む 学年部会の打合せを実施

これまで毎週末に行っていた職員全員が参加する終会を廃止し、専科教員を含む学年部会の打合せを実施することにしました。打合せの時間を十分に確保でき、授業内容や児童の様子などについて情報共有を図ることができました。

#### 2時間目に専科教員の授業を 位置付け、中休みに打合せを実施

専科教員の授業を2時間目に位置付けるようにしました。専科教員の授業が終わった後、中休みの時間を学級担任と専科教員の打合せの時間に充てることができ、時間を十分に確保することができました。

#### 毎週木曜日を 5時間授業の日に設定

専科教員による授業がある毎週木曜日を5時間授業の日としました。児童が下校した後、放課後の時間が通常よりも長いため、専科教員と学級担任の打合せの時間を十分に確保することができました。

#### 2週間に1度の学年部会で 専科教員との打合せを実施

2週間に1度実施する学年部会に、専科教員も加わり、打合せを行いました。授業にかかわる打合せのほか、専科教員の授業中に起きた出来事や生徒指導にかかわる情報を共有することができました。

## 教科担任制の充実に 向けたヒント②

### ICTを活用した情報共有

専科教員と学級担任が直接打合せを行うことができない場合の対応に向けて、ICTの活用により情報共有を図っている学校の取組例を紹介します。



#### Chatで専科教員の時間割を 全校で共有

毎週、専科の先生がどこの学級にいつ入る予定かを、学年打合せ前にChatで全校に知らせ、その予定表をもとに学年と専科の先生で内容や予定のやり取りを行っています。Chatを使用することで情報を全員が同時に共有し、離れていてもリアルタイムにやり取りできます。

#### クラウド上で時間割を 調整・共有

Google スプレッドシートなどのクラウドアプリを使い、インターネット上で時間割作成ファイルを共有しました。同時編集が可能のため、時間割の調整や作成を円滑に行うことができました。

#### 専科教員専用のクラスルームを 設定し、情報を共有

専科教員専用のクラスルームを設定し、板書の画像や授業中の子どもの様子、進捗状況や時間割を共有しました。また、その他の諸連絡はストリーム機能を使って即時的にやり取りを行い、情報を共有しました。

#### 授業の記録簿等を クラウド上で共有

授業などの記録簿をスプレッドシートで作成し、専科教員と学級担任、教務主任等の間で共有しました。各学級における指導内容や進捗状況を随時把握し、時数の管理なども円滑に行うことができました。

#### クラウドを活用した授業により、 学習状況をいつでも共有

授業では、クラウドを活用した学習を行っており、児童の様子や学習の状況を日常的に専科教員と学級担任の間で共有しています。クラウドを使って学習していくと、端末上で児童の学習状況を共有できるので有効でした。

#### 管理職や教務主任、専科教員の チームをつくり、情報を共有

Teams を活用し、地域内の各学校の管理職、教務主任、専科教員のチームをつくりました。学校行事や時間割、専科教員の予定など、様々な情報を共有することにより、連絡や打合せ等の時間を削減することができました。

## 教科担任制の充実に 向けたヒント③

### 連絡体制や分掌、会議の実施、座席配置の工夫

複数の学校で指導する際の専科教員と各学校の教職員との日常的な交流に向けて、連絡体制や校務分掌、会議の開催、座席配置を工夫している学校を紹介します。



#### 主幹教諭がコーディネーターとして連絡・調整を実施

各学校の主幹教諭がコーディネーターとなり、専科教員との連絡・調整を密にとり、その情報を管理職や各学級担任に伝達するようにしました。専科教員と学級担任が直接会えない場合でも、主幹教諭が間に入ることで連絡漏れを無くすことができました。

#### 時間割の調整や学習内容の確認を主幹教諭が窓口となって実施

専科教員は限られた時間しか学校にいないため、主幹教諭が窓口となり、時間割の調整や学習内容の確認を行い、事前に学級担任へ周知しました。学級担任からの要望や連絡事項があった場合も随時、専科教員に連絡しました。

#### 長期休業期間中に教頭と専科教員の座談会を実施

長期休業期間中に、地域内の3校の教頭と専科教員による座談会を行いました。各学校・各学級の様子や学習状況などについて情報を共有し、成果と課題を整理するとともに、新学期以降の取組の方向性について共通理解を図ることができました。

#### 新年度及び新学期の初めに学習指導の重点等について確認

年度初め及び学期始めに、学級担任と専科教員の間で、学習指導・生徒指導の方向性や重点を確認しました。授業観や児童観の共通理解を図るとともに、協働的に教科指導の充実に図っていく意識を高めることができました。

#### 専科教員を「高学年の副担任」として校務分掌に位置付け

専科教員を校務分掌上、「高学年の副担任」という位置付けにしました。毎週の学年部会には副担任の立場として参加するため、授業に関する打合せのほか、児童の様子や生徒指導に関する情報の共有の充実に図ることができました。

#### 職員室の高学年の箇所に専科教員の座席を配置

職員室の座席配置を工夫しました。高学年の箇所に専科教員の座席を置き、学級担任と専科教員が情報交流しやすいようにすることにより、日常的に打合せができるようになりました。

## 参 考

小学校における教科担任制については、全国各地で取組が進められており、先進事例の成果の普及が図られています。参考となる全国の資料を紹介しますので、御活用ください。

### 〔小学校における教科担任制に係る全国の資料〕

資 料	URL	二次元 コード
小学校高学年における教科担任制に関する事例集 ～小学校教育の活性化につなげるために～ (文部科学省)	<a href="https://www.mext.go.jp/content/20230310-mext_zaimu-000027939_1.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20230310-mext_zaimu-000027939_1.pdf</a>	
小学校高学年における教科担任制の導入について (大分県教育委員会)	<a href="https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/kyoukatanninsei2.html">https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/kyoukatanninsei2.html</a>	
兵庫型教科担任制に関すること (兵庫県教育委員会)	<a href="https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/project/hyokyotan/">https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/project/hyokyotan/</a>	
小学校教科担任制推進について (広島県教育委員会)	<a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/kyoukatannin.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/kyoukatannin.html</a>	
本県における小学校高学年教科担任制について (神奈川県教育委員会)	<a href="https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyoukatanninsei.html">https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyoukatanninsei.html</a>	

小学校高学年における教科担任制の充実に向けて  
「学校力向上に関する総合実践事業」の実践から学ぶ取組のヒント集

令和6年3月発行  
編集・発行 北海道教育庁学校教育局義務教育課